

松屋筆記

卷廿六

59

45
1397
10



門 5
號 1397
卷 10

昭和四年二月六日
高田早苗

杉屋筆記卷廿九



婦学大綱

乃ソヤニ者

1. 1841
 2. 1842
 3. 1843
 4. 1844
 5. 1845
 6. 1846
 7. 1847
 8. 1848
 9. 1849
 10. 1850
 11. 1851
 12. 1852
 13. 1853
 14. 1854
 15. 1855
 16. 1856
 17. 1857
 18. 1858
 19. 1859
 20. 1860
 21. 1861
 22. 1862
 23. 1863
 24. 1864
 25. 1865
 26. 1866
 27. 1867
 28. 1868
 29. 1869
 30. 1870
 31. 1871
 32. 1872
 33. 1873
 34. 1874
 35. 1875
 36. 1876
 37. 1877
 38. 1878
 39. 1879
 40. 1880
 41. 1881
 42. 1882
 43. 1883
 44. 1884
 45. 1885
 46. 1886
 47. 1887
 48. 1888
 49. 1889
 50. 1890
 51. 1891
 52. 1892
 53. 1893
 54. 1894
 55. 1895
 56. 1896
 57. 1897
 58. 1898
 59. 1899
 60. 1900

杉屋筆記卷廿六

目錄

- 一 岩屋とり地名
- 二 戴餅
- 三 身院
- 四 土切の屋と城のクハ
- 五 水のと
- 六 水鏡
- 七 水鏡
- 八 意の思あひの

(九) 三嶋の彦作

(十) 越隠

(十一) 酒海とみ器。長袖の人。氏を五

色と云ふ。和歌博土。ハナハの

米の字。五位の黄袍。

(十二) 猿蓑内

(十三) 猿蓑敷

(十四) 狐を穿る祠

(十五) 火切の餅。借馬。其の名義。大

京川

(十六) 志とが餅

(十七) 毛餅とよめる歌

(十八) 物なとりよる物

(十九) けりては

(二十) 餅子

(二十一) 虫みりて白み

(二十二) ぐらぐらかい

(二十三) 子代勤當の御判を取

(二十四) 回國を廻し様と云ふ

(二十五) 露

廿七

後コウ架カ

廿八

ヤシと云イハの

廿九

さりサリと云イハの

三十

事コトらラぬヌ笛フエをカくク

三十一

素スりリとト素スりリとト素スりリとト

三十二

又マタ徳トク者モノ又マタ者モノ 郡ノ郷ノ宮ノ寺ノ

三十三

日本ニッポン 庶シヤク 狹キヤク 并ナヒ 郎ノ 郷ノ 宮ノ 寺ノ

三十四

社ノ 易ノ 女ノ の 敷ノ

三十五

大オホ 佛トク

三十六

正マコト 立タテ 九ク 月ツキ の 齋イハヒ 月ツキ

三十七

瓜ウリ を 陰カゲ 日ヒ

松屋等死卷廿六

東郡 高田與清文儒

① 谷原と云地名

武藏國新庄郡谷原あり

常陸國筑波郡谷原領七

十三箇あり谷原を聞

た新田相模國谷原あり

以谷原あり谷原あり

同國高尾郡谷原あり

池ありト邊と谷原あり

口口の我師さづし鎌倉えん刊
つと云い谷川の我れ武蔵多摩
郡えい谷川とらり又谷地の面
香りやちつのことと名所方角抄え
るやかき相摸國高座郡鎌倉
郡やまよ兵部おあり相摸谷邊
の心れ武蔵多摩郡^井右保おあり
道言し又相摸國律る縣よ谷
原^おありといはたか原と叫えや
さうさう

⑤ 戴餅 いんげんもち

夫木抄雜ナ七信實貝歌 新撰ラ帖
まのまのの君のまのあひさ
抄卷十五 櫻子^ま寛元三年正月一日
そ今日者宮中戴餅也大夫^も卿
奉^い能之傳持^い之^一寺作^い 所近こ之
向^い無^い御^い劍^い位^い大^い 古事^い後^い卷^い六^い
安^い藝^い守^い日^い左^い明^い 後^い憲^い 聖^い子^い之^い時^い二^い月^い
戴^い餅^い之^い間^い少^い納^い言^い 入^い道^い 祝^い言^いニ^いテ^い参^い

櫛口秘記の戴餅公家子兒
生る世日ノ食始ニアルコトセサキ餅
ヲ下ニオキニ番目ニ中ノモチヲオク上
ホド大シニツカサ子大根ト橋トヲ先
ニノ両方ニ置キヘガニオキテ出ストキ
長鳥帽子子子戴餅イタキモチトヨム
古代小兒ノ頭ニ餅ヲイタカセテ祝詞
ヲ云テ賀スルアリキオキ諸篇抜
萃山陰雜事倭訓集三の卷付と
云ふ云々の可考

三) みるり

みるりといふは水隠の神なるにあ
り又嫁姑と身をまるともなる夫
本抄雜事六の條原長歌
ちらやぶるあまのいそふかゆひさ
みとめとめとみるりの神又倭歌
ほろろし子今いぬんみるりの神の
みるりいありとみるりけ二首の歌
みるりいありとみるりけ二首の歌
みるりいありとみるりけ二首の歌

つる川月

⑥ 磯道

夫本抄雜十卷慈鎮和尚

了んちくしきまの井の法の水

比くみんさるる水又為類

さうまけんしきまの井の水

さうまけんしきまの井の水

さうまけんしきまの井の水

さうまけんしきまの井の水

さうまけんしきまの井の水

さうまけんしきまの井の水

⑦ 水囊

今の世俗に水囊の類を

ス井ナウと云ふ物と指す物

あるは水一味増しと云ふ

素徳来 和の禪家の具をも云ふ

水囊と云ふ水と云ふ水

水囊と云ふ水と云ふ水

水囊と云ふ水と云ふ水

水囊と云ふ水と云ふ水

名記 水囊 馬尾 菅

水囊と云ふ水と云ふ水

俗言子玉の岩掛の如しりめとあり
清瑠璃本町の阿古聲よし堂忠の河を
さとしよまとい思ふありわとあり一万葉
土の巻

いそるのりりともるづきたれと
こいあふとるはの海あり

丸三嶋の彦咋

古事記中卷神武の段に三嶋彦咋が
女名勢夜陀多良比賣とあり三嶋は
赤目三嶋郡と推略記より之れは三嶋上

四等々音
見之清

嶋と二郎子多しこり三嶋之玉江三
嶋江之入江はともたふる所にて水邊也
彦咋は満良氏名に負し船匠鹿
也といふ人多しが所故木尊下彦咋
夫木抄箱の部也と云後代田上
あつめはほりこりのあまのつらさを
たつめはほりこりのあまのつらさを
よるる
この後みそらふらふらとあり
たつめはほりこりのあまのつらさを

溝貝よりかひやしきん神名帳に振
津国嶋中郡溝咋神社とあるはこの
三嶋溝咋を祭りし社ありて今も
まゝに溝咋とてありし古事記傳
廿の卷抄に云つり社に溝咋の肉
馬場抄と云ふ坐よりいふに

⑩ 封隠

三河行通参語抄二の卷に東寺相
承封之事 中略 件に封り付テ後ハ封
隠トテ別ノ紙ニテ封ノ上給付之云々

封イ漢名
平帝紀七丁才
宮中記
と云
マラモトハ
早九約
堀表四七才

名物六世品外年一ナチ才

夫封のうづ紙又別紙を包て封
ト目の損せぬやうに紙封
と云ふ

⑪ 酒海より器に長袖の人瓜を
土色と云ふ和歌博土
相ハ十八の米

酒海と云ふ器物の名に○神職の衣
長袖と云ふと東國太平記の
蒲生飛騨守秀行以使者示回

あやうし、黄袍の無位の庶人の服と
思ふ人をををりて、無位なること、庶人
よりあやうし、無位なること、庶人
位子叙はつきの人の末位と稱ふは
無位といふ庶人の賤はよいか
か、
か、

③ 換案内

古書子換案内といふ、案内、字案
を自家の書置の字案あり自家の
案の内を換し考ふこと、
考ふこと、
考ふこと、

③ 卷数

家記類子卷数といふとあり
盛衰記といふも、
ヤ、
おろし、
臣校、
おろし、
盛衰記、
と、

④ 狐と案の祠

卷数、
考ふこと、
考ふこと、
考ふこと、

善於伸信友

新撰字鏡
米部
餅

新撰字鏡米部之精祭祥米志止
支之不和物志祭祀具部之陸羽
切韻云米祭餅也漢語飲云米之
皮及之類聚名致也

和漢字面
餅

堂家洞韻脂之止米之
トキミ字鏡自七の卷米部之
米シトキミ流同云色世字類
抄七の卷志部 餅食子長トキミ
版。米餅。米。止上。米餅。祭餅也

今昔物語
の卷十三
餅

身他字類 抄飲食部之米長トキ
ミ新韻自志平部之米祭餅
トキミ撮壤自下食物類部之
米シトキミ信玉音用米部之米
トキミ音用自志部之米シトキミ

餅字記

字源拾遺

四の卷行子之ミミハヤミヤ
ミヤハレハミヤミヤハレハ
ヤハレハミヤミヤハレハ
ミヤハレハミヤミヤハレハ

ろくみあつり云々 新島下巻子 粟
神道名目類聚卷之三 元禄己卯年野
冠具杯全名冊
云 粟餅 餅米ノ蒸熟シテワケカニ書
籩子ノ形ノ長キガ如ク作ルナリキ 梅
栗餅ハ丸クシテサシ長ノナルヲ云 栗
庫録ノ大カノ銘ナド是也 餅ノ傳
訓 粟土志ノ部ニ云キ 白麩ノ教
ス一 今ハ精米モ云キ 餅ノ米モ
云キ 餅ト云フコト 餅好ノ儀 祭祀
知 稗米粉ノ餅 餅ノ氣モ云キ

餅何物ノ儀 白餅ト云フキ 説文
餅和餅 與 糝 同 糝子カ 餅ノ注
ニ 粟粉餅也云々 與 湯 糝子 或 糝
ニ 所云ノ 糝子 糝米モ云フ
の 餅子ト云フコト 考ルコト 餅ノ氣モ
云々ノ 糝方ニ 形ハ 粟ノ 色オ 餅ノ
ノ 餅ト云フ

高陽院七音歌字正家朝
凡の音の

喫とありいんくもあふは赤んぼといふ
つとあづさひアかごと整り
はつて片岡の物の声ひも
はるがやう

世血みどり血がい

買あの方言り血みどり血みどり
リチがキとさういふ血みどる血あえの
記しは本朝今著聞血みどる血
血みどる血とあり血みどる血
血みどる血

今昔物語成る記すは捨遣ひと
二つありてさういふ血みどる血

世むらさきがい

俗言子物を奪ふはむらさきといふ
しうしう治捨遣ひの巻
しうしういふとさういふ血
はらちさういふとさういふ血
はらちさういふとさういふ血
世むらさきがい
世むらさきがい
世むらさきがい

武藏相模... 水滸... 父宋江... 一... 郷人ノ...

世四国地廻り孫と名る

俗言子回国外... 片舟... 馬子成る

漢書

世蹀躞

負永式目... 蹀躞の果利... 蹀躞と名る

後... 小便所... 雪隠と名る

品字... 同架... 西架...

後... 後... 後...

新六
 更俊
 水あはほい
 の命をうける
 ヤリウの
 伊勢守
 菅原
 上代
 上代
 上代
 上代
 上代

依り物のいそがしき
 世話敷きとまゐり
 下やまといふ
 夫木抄籍十八部
 言話
 後れ初玉
 今更のいふ
 又る世り
 依り事
 留アケといふ
 依り事
 留アケといふ
 依り事
 留アケといふ

廿九

笛うかんと忘るに北面ノ下膳具とる
 こと

廿九

依り事
 素の義
 留白郎の友
 左なるも
 やいへ
 源平盛
 衰記
 文世
 見清水
 依り事
 福樂
 依り事
 依り事

世 又徳都又者

田村屋より
今世の世
大なるもの
いづれなる

今の世倍匠比又者とより海平
盛衰池城の漢文塔見清水伏の事
子此空ニ噴行リ又都のハ大歌五ノ
者有属ノ又徳都ノ又徳都百重ツカ
リニモ及ビ難キ小歌也云々とありし
あるもいなり

世二 日本属候并郡郷生寺社屋敷
運歩多量集 國郡子此之如独銀形
依之佛法盛也又如薩負形依之金

銅銀鉄等并五穀豊稔自王
城之陸奥事瀆三千五百十里
又自王城之長門西瀆二千九百
七十里行若若屋屋所當乙
本國中三郡郷村里田富并佛
宇神宮家男女等負數國分
十六嶋國二郡六百一郷九所ハ
千一百万五十八里四十万五千三百
田一十方九千一百十五町三段三
富一十方七千四百十六町廿三歩併

宇二千九百五十八。神宮二百七十七
百十三。成神宮三千七百五十一。成小
佛一萬九千。男數十九億九萬。甲
千八百廿八。女數廿九億四千
百廿八。又曰。男子十九億四千八百
廿八。飛由廿九億九萬四千八百廿
四人。就中。女六億四千七百八十
三人。自男多。言。日本東西
二千八百七十里。同南北五百三十七
里。拾界抄。中。本相國郡部

大日本國。面行。其善。薩所。圖
也。此土。欲如。柱。鉅。頭。仍。佛。法
熾。盛。也。其。如。寶。形。故。有。處
銀。銅。鐵。等。其。寶。五。殺。豐。積
也。七。通。州。字。十。八。分。內。增。三。郎。六。百
四。鄉。一。萬。三。千。余。言。自。京。陸。奧
際。行。程。三。千。五。百。七。七。里。一。所。考。考
京。長。門。西。濱。行。程。一。千。九。百。七。十。八
里。一。所。考。考。海。平。成。皇。紀。七。の。卷
下。望。嶋。道。祖。神。事。考。考。日本國

東西一丈七事二千七百五十五里南北

八五三三十七里也

〔註〕大佛

和河二道三

拾芥抄 下卷 大佛部 五東大寺

在大和國 河内國 知識寺 在大縣郡

近江國 南寺 在志賀郡 云、興清

東大寺 慶舍那佛の事 口本記

の事 大岡記の事 京都 妙法寺の大

佛の事 又東福寺大佛 大

和長谷觀音相摸 鎌倉大佛 江

徳和廣名

數

鎌倉大佛

建仁寺大佛

西河下

鎌倉大佛

徳和廣名

戸上野大佛 廿七今現存也

〔註〕正丑九月 齋月

珠林目錄三其子

拾芥抄 下卷 九月 齋月 年三長命

正月 丑月 九月 此月 名帝秋

對南 簡 浮提 歌 記 衆生 善惡

也將 斷 五時 持戒 精進 稱佛 并

名一切 罪業 消滅 災難 起

命 終之後 生 十方 淨土 或

此月 七上十五 日 可 持戒 齋行

通 卷 下 卷 下 終 後 齋 錄 一 鎌倉 年中 行 中 下 卷

香齋造華

正丑九月

拾芥抄

下卷

九月

齋月

年三長命

珠林目錄

三其子

鎌倉年中

行中下卷



